

Leading center for the development and research of cancer medicine

ニュースレター

第1回臨床研究チーム合宿 開催

～多施設・多職種チームで研究プロトコルを作成し、実践しよう～

参加校：順天堂大学、島根大学、鳥取大学、岩手医科大学、東京理科大学、明治薬科大学、立教大学

順天堂大学 医学研究科 乳腺・内分泌外科学 教授 齊藤 光江

平成25年
3/2(土)～3(日)
in
晴海グランドホテル

臨床研究チーム合宿記

2013年3月の第1土日に、順天堂大学第二期がんプログループの各大学の大学院生有志たちが、それぞれの研究テーマを携えて晴海の研修所に集まった。3名の生物統計学の熱心な講師陣（山本、米本、松岡先生ら）の講義と、ビジネスコンサルタント大崎さんの楽しいチームビルディングの体験実習の後は4つのグループに分かれ、いよいよ一夜を共にするグループワークの始まりである。持ちよった研究テーマを発表し合い、各々8名ほどの多分野の大学院生たちが、全員で関われる研究テーマを決めていく。この作業の中で、リーダーシップ・コミュニケーション・フォロワーシップ・コンフリクトの解決法・エビデンスの重要性などを体得していく。医師・薬剤師・統計学者・医学物理士の卵たちが、時に熱く、時に壁にぶつかり、最後はプロトコルを作り上げるというゴールに向かっていく中で、研究においてもチームワークが如何に大事であるかを学んでいった。と同時に、各大学の講師陣がチューターとして、これを見守り、要所要所で集まって進捗を報告し合い、何を指導すべきかを討議した。結果、介入を試みたり、更に見守ったりと、こうしたグループワークの教育法を学ぶという、院生に負けないくらいエキサイティングな経験をした。

二日目の発表会においては、4グループとも見事に研究プロトコルを作り上げ、チューターの投票による優勝チームには、今後その実施を支援するという副賞が付いた。どのように研究課題を決めるのか、どのようなデザインをするのか、どのように計画書をまとめるのかのみならず、どのようにチームを作っていくのかということも院生も教員も学んだ濃い二日間であった。第一期がんプロ合宿で積み上げたノウハウを活かし、更に充実した企画になったと感じている。既に2チームは、研究の開始に向けて多職種・多大学ミーティングを始めている。実際の成果を挙げてこそこの企画であるから、今後、真のゴールに向けて教員一同支援していきたいと考えている。

急遽の企画にも関わらず、快く協力下さった講師の先生方、事務方、そして何より頑張った院生たちに、この場を借りて感謝申し上げたい。

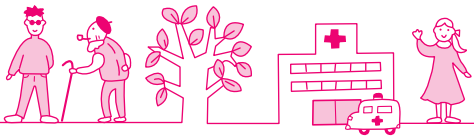
合宿当日のスケジュール

期日	時間	内容
第1日目 (3月2日)	12:00～12:05	挨拶、事務連絡
	12:05～13:15	臨床研究のためのランチョンセミナー
	13:15～18:30	チーム研究実習(グループワーク)
	18:30～19:30	「チームの役割とは」ディナーセミナー
	19:30～21:30	グループワーク
第2日目 (3月3日)	9:00～11:00	発表会
	11:00～11:30	全体討論・感想
	11:30～12:00	修了式 等

連携7大学ICT講義が始まりました

2月28日(木) 国際シンポジウム

3月11日(木) 市民公開シンポジウム



情報 コーナー

報告

下記のとおり大盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。

- 順天堂大学 国際シンポジウム
テーマ「先導的国際がん研究の動向」
2013年2月28日(木) 13:00～16:30 順天堂大学 センチュリータワー 8階 801教室
- 順天堂大学 第1回臨床研究チーム合宿
～多施設・多職種チームで研究プロトコルを作成し、実践しよう～
2013年3月2日(土)～3日(日) 1泊2日 晴海グランドホテル
- 順天堂大学 市民公開シンポジウム
テーマ「対話学・対話カフェの重要性」
2013年3月11日(月) 13:00～15:30 順天堂大学 10号館 1階 105カンファレンスルーム

今後のスケジュール

- 連携大学ICT特別講義 テーマ「新薬、機器開発(PMDA)」
ゲストスピーカー：独立行政法人 医薬品医療機器総合機構(PMDA)審議役 佐藤 岳幸 氏
対象：大学院生、医師・薬剤師・看護師など診療・教育・研究に携わる全ての医療人
2013年6月12日(水) 18:30～20:00 ICT接続により連携7大学各校で開講予定
- 外部評価委員会
2013年10月25日(金) 13:00～16:00 順天堂大学 10号館 1階 105カンファレンスルーム

編集後記

人間の身体と臓器、組織、細胞の役割分担とお互いの非連続性の中の連続性、そして傷害時における全体的な「いたわり」の理解は、世界、国家、民族、人間の在り方への深い洞察へと誘うのであろう。最近の報道に見る「いじめ」をはじめ「社会・組織・人格の劣化」に対する「日本国の処方箋」は、実は「偉大なるお節介症候群」(診断基準：1. 暇げな風貌 2. 偉大なるお節介 3. 速効性と英断)に、具象的に、内包されていると思える。がん医療の現場における「対話学・対話カフェ～偉大なるお節介～」の重要性の気づきでもある。「偉大なるお節介症候群」認定の選考項目として、(1)「役割意識&使命感」(2)「練られた品性&綽々たる余裕」(3)「賢明な寛容さ」(4)「実例と実行」(5)世の流行り廃りに一喜一憂せず、あくせくしない態度(6)軽やかに、そしてものを楽しむ。自らの強みを基盤とする(7)新しいことにも、自分の知らないことにも謙虚で、常に前に向かって努力する(8)行いの美しい人(a person who does handsome)(9)「冗談を実現する胆力」～sense of humorの勧め～(10)「ユーモアに溢れ、心優しく、俯瞰的な大局観のある人物」が挙げられる。

編集長・広報委員長 樋野 興夫

順天堂大学先導的がん医療開発研究センター 順天堂大学がん生涯教育センター

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1

編集 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 広報委員会

発行 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

<http://ganpro-ict-plan.jp/index.html>